

## 報告テーマ②[1904B]

### 都市の文化的創造的機能を支える公共交通の役割

プロジェクトリーダー 中村 文彦

#### (1) 研究目的と概要

未来の都市のあり方を考えるにあたり、都市はサステナブルであるだけでなくクリエイティブでもあるべきと考えられる。すなわち、ニューヨーク、ロンドン、パリといった例を出すまでもなく、文化的かつ創造的な機能・活動の集積の重要性は大きい。

本プロジェクトでは、それらから派生する交通需要の受け皿として、あるいはそれらの活動を誘引・誘導する仕掛けとしての公共交通の、これまでの、そしてこれからの役割を明らかにすることを目的とした研究を行ってきた。初年度の 2018 年度は、総括的議論、ニューヨークとロンドンでのケーススタディ、ウェブ調査での意識行動調査を試みた。それらの成果をもとに、2019 年度は意識や行動、地区のマネジメント体制についての詳細な調査と、わが国でのケーススタディのための基礎調査を行った。具体的には、海外専門家招聘とワークショップの開催、余暇行動に関するウェブアンケート調査分析、東京とニューヨークおよびロンドンとの比較、海外都市調査、国内都市調査、以上を受けての公共交通の課題についての討議を行った。

#### (2) 質疑応答

Q. ウィーンで見られるような歩行者空間の確保が日本で展開されない要因はどこにあるのでしょうか。

A. 都市の集積密度が違うこと、時間帯で運用することができるのが違いである。日本のような状況では車を締め出すことが難しいため、公共交通をつなげた空間設計が必要である。

Q. サステナブル、クリエイティブの定義は国際間で明確でしょうか、例としてサステナブルとは何年くらい先の未来を指しているのでしょうか。

A. 環境、経済、社会的な持続可能を指していると思うが、基本的には長期を見ながら短期を考える必要がある。このプロジェクトで考えると、10 年 20 年後の未来を見ているが、短期で方向を変えていくことも必要であると認識している。

#### (3) 出席者の感想など(一部抜粋)

- ・新型コロナの現象が起こる前に、通勤や通学だけではない公共交通のあり方を論じてきており、先見性のある研究となっている。
- ・精神的にも生活を豊かにする都市構造と配置構造は自由競争もあるでしょうが重要性を感じます。ある意味都市構造のあるべき姿です。それを支える公共交通であれば、朝夕のピーク以外の時間帯での稼働の上昇も期待出来て車両の構造も変化が期待できそうです。

※本資料は発表者本人の事前確認を行っております。また、質疑応答および出席者の感想は基本的に原文のままとしてあります。